

踏み跡 < My mountains >

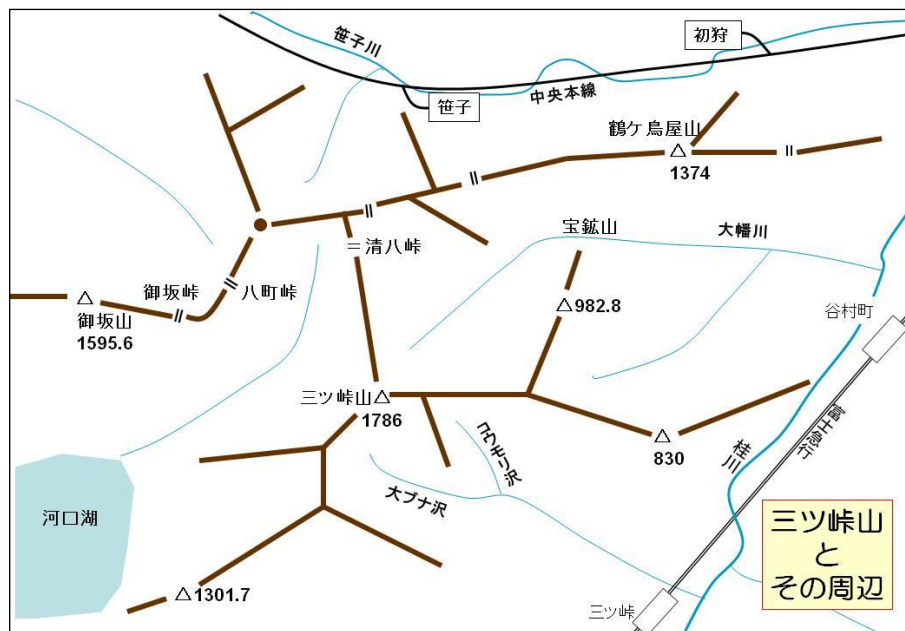
| | | |
|----|------------------|---------|
| 御坂 | 宝鉱山から三ツ峠山（裏から裏へ） | No. 024 |
|----|------------------|---------|

遂に念願の皮製登山靴購入を果たした。新品の靴による第一回目の山行は、恩田のアイデアで三ツ峠山を風変わりなコースから登ろうということになった。

昭和 38 年 12 月 21 日
おなじみの 23 時 45 分発
長野行で出発。

昭和 38 年 12 月 22 日
大月で富士急行の一番電車に乗り、谷村横町で下車。
星の降り注ぐような夜、3 時半に出発。

桂川支流の大幡川に沿って西へ宝鉱山に向かう。
とにかくこの道の長かったこと、眠かったこと。居眠りしながらあっちにフラフラ、こっち



にフラフラ、遂には二人で肩を寄せ合って互いに寄りかかりウツラウツラしながら歩く始末。突然右の恩田が石に躓いて前に転んだとたん、私は彼の体による支えを失って危うく転ぶところで覚醒。ところが恩田はいつになっても起き上がらない。

「オイ、どうした？大丈夫か？」と肩をつつくと、「エッ？アー、アレ？なあんだ、寝ちゃったのか、いつから寝ていたんだろ？」自分が転んだのにも気が付かずに熟睡している。緊張のない平地歩きは恐ろしい。

6 時半、ようやくトラック道が終わる宝鉱山に到着。ここは硫化鉄鉱の鉱山で、明治 5 年に鉱塊が発見され、明治 23 年に事業化された。夜明けに居眠りしながら歩いて来たせいか、鉱山らしい風景は何一つ記憶がない。ここからは山道、もう居眠りはできない。

凍結したいくつかの滝を見送りながらの約二時間の登りで、三ツ峠山山頂のパラボラに出た（8 時 45 分）。山頂は 1786m、まず第一に富士山の大きさに驚かされる。七分に雪を抱いた富士は仰ぎ見る高さに突き出しており、富士の右手に南アルプス・中央アルプスの山並みがこれまた新雪を着けて一列に並んでいる。太宰治が絶賛した「雪をつけた坂からの富士」、太宰の気持ちがわかる。南アルプスの中でもとりわけ北岳の貫禄ある姿が目立ち、その横に並ぶ鳳凰三山も眷属のように厳めしく立っている。ハケ岳も負けじと立ち、こんなに豪華な眺めがあって良いのかと思うような休憩時間になった。

頂上での昼食時、缶切りの上に恩田のエアマットを乗せて二人で座ってしまい見事に風穴を開けてしまった。食事を済ませて、屏風岩を眺めた後 12 時 15 分に出発。笹子に下るべく又裏口へ。北の肩になっているところまで下り、小ピークをいくつか越えると樹林帯の中の清八（せいはいち）峠、13 時。

清八峠は 1550m、御坂山から連なる御坂山塊の主稜に属し、稜線はさらに東へ鶴ヶ鳥屋山、高川山を経て田野倉に至っているが、道はおろか踏み跡もない。我々は、北へ笹子鉱泉への道を下った。

笹子駅に 14 時 45 分に到着、笹子餅を食べたような気がする。

以上

<後日談> 富士急行の駅名「谷村横町（やむらよこまち）」は、後に「都留市（つるし）」と改称された。

宝鉱山は、貧鉱になり昭和 45 年に閉山になった。

（修正・更新：2023 年 9 月）